

# 栗原市教育研究センター通信

第2号 平成27年12月発行

こんにちは。栗原市教育研究センターです。

1年の総まとめの12月、これから迎える新しい年へ橋を架ける、築館中学校の事業をご紹介します。

築館中学校では、築館地区小学校6年児童への出前授業を行っています。この事業は、平成25年度に宮城県教育委員会の志教育支援事業を築館中学校区の小・中・高等学校が受けたことを契機に、志教育の推進、小・中学校の連携、中1ギャップの解消等をねらいに始まりました。3年目となる今年度は、11月17日（火）に築館小学校で、同じく20日（金）には玉沢小学校と宮野小学校で実施されました。



今回は、築館小学校の6年児童（3学級78人）を対象に、6時間目の各教科の時間を利用して行われた出前授業を参観してきました。

稲邊克仁教諭とALTのバード・ブランドン先生による1組の英語は、題材名が「できる！」で、「can」を使って自分や友達ができることを、英語で説明できるようにすることがねらいでした。英語で「パン(Pan)」は食べ物ではなく、「フライパン」であると、日本語と英語の違いに気づかせ、英語への興味を引きつけていました。また、ビンゴゲームを取り入れたり、ジェスチャーを多くしたりするなどの工夫が見られ、児童は楽しく学習に取り組んでいました。中学校での英語学習への期待を高めるといった目的が達成できたと感じました。

谷田敏幸教諭による2組の社会は、「日本をいくつかの地域に分けてみよう」の題材で、都道府県について興味・関心を持ち、それらの名前を覚えようというねらいでした。授業では、「山」、「島」、「川」や「動物の名前」がつく県を当てるといったクイズ形式を取り入れるなど、児童が楽しく興味をもって学習できるような工夫が見られ、児童は集中して学習に取り組んでいました。指導者の事前の教材研究がよくなされていたことが功を奏した授業でした。



伊藤直之教諭による3組の理科の題材は「ものどけかた」。無色の液体が入った2つのびんの口を合わせると液体が混ざり合い、下のびんに沈んでいた卵が上のびんに浮いてくるというダイナミックな実験をもとに、「卵が浮かび上がったのはなぜか」という課題に取り組みました。個人や班で考え、全体の場で各班が発表しました。まとめは、中学校の学習内容である「飽和水溶液」や「浮力」についての説明でした。児童の意欲を持続することができた導入実験と授業の構成で、児童からは、「みんなでひとつのことを考える授業が楽しかった。」などの感想がありました。



どのクラスでも児童を引きつける魅力的な授業が展開され、築館中学校の先生方が、入学予定の児童のために授業づくりに力を注いだことがうかがわれます。また、築館小学校の児童の皆さんは出前授業に積極的に取り組んでおり、日常の学習がきちんとできていることがよく分かりました。

この出前授業は、児童の皆さんの中学校への期待を高め、小学校の生活や学習にしっかりと取り組む意欲を支える素晴らしい事業だと感じました。

築館中学校区の確かな連携を強く受け止めた訪問となりました。

〈特任教授 原吉宏〉



発行責任者

栗原市教育研究センター 所長 鈴木俊  
栗原市金成沢辺西大寺1-5  
TEL/FAX 42-1157  
教育相談専用電話 42-1230